

あとがき

この物語の表題として標榜する「教育にイノベーションを」には、寺部曉現理事長の思いが深くこめられている。そこには、教育の根幹的な要素として従前から言い伝えられている「知育」「德育」「体育」―基礎学力に、新たに「社会人基礎力」の養成を加えることによって、広い意味でのコミュニケーションで十分に活躍し存在性を示していける人材の育成を目指す、学園の教育姿勢が表されている。しかし、安城学園の教育のイノベーションはいまに展開されているのではない。

イノベーションとは、物事の「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」を創造する行為のことであり、それまでのモノ、仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを指す」と定義づけられている。その概念に依れば、二〇一二年に創立百周年を迎える。その長い間に学園は三度のイノベーションを織り成した。戦前、ひたすら「自立できる女性」の育成をはかって女子教育の礎石を営々と築いた創立者・寺部だい氏によって貫かれた教育理念は、戦後の学制改革によって大きく変容せざるを得なかった。

婦芸および婦徳の涵養を目指した家事裁縫の教育内容は、女性の社会進出を前提とした「衣食住に関わる総合科学」とされ、裁縫を主とした「技芸教養」の修得は「家庭科」としてくくられた。

そこに、だい氏の戸惑いも大きかった。だが、この転換に際して、だい氏の新たな挑戦が始まった。職業学校に代わる高等学校に普通科・商業科・生活科・家庭科を置いて西三河随一の総合女子高校へ発展。専門学校に代わる短期大学を設置。さらに幼稚園を復活させて、安城学園の礎石を築いた。創立者のイノベーションは、さらに宿願の大学を設置することで、次代にバトンタッチされることになった。

第二のイノベーションは、家政学が「衣食住に関わる総合科学」として大きく進化していく中、大学の家政学部を全国初の男女共学制とするなど体制・内容の充実に努め、経営学部の増設、国際化推進と、学園の核として大学の骨格を強めた。その進展は愛知女子大学から、安城学園大学、愛知学泉大学としていった名称変更にも表された。それは、次代の運営者が時代の流れを読み込んでいったイノベーションだった。そして今、第三のイノベーションが力強く推進されている…。

安城学園が図るイノベーションに一貫するのは、若い世代の持つ無限の可能性を信じそれを引き出すこと。そして西三河という地域に根ざす学園としてあくまでも地域社会との縁を大切にいくことが基盤となっていることである。創立以来の建学の理念「庶民性と先見性」、教育の基本理念「真心・努力・奉仕・感謝」を堅持し、そして教育目標「生きる意志・生きる力・生きる歓び」を謳う。安城学園の強味は、これらをバックボーンとして、教職員ら学園関係者が教育の結実に一丸となっていることでもある。